

ODIP 4.2 修正パッチ (P1040202005445) リリースノート

2022/10/31

(株) インテリジェント・モデル

ODIP は、(株) インテリジェント・モデル社の登録商標です。

本書に掲載された情報に基づいた行為の結果として発生した損害、利益の損失、経費などについて、(株) インテリジェント・モデルならびに本書の製作関係者は一切の責任を負いません。

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で転載・複製することは法律で定められた場合を除き、禁止されています。

目 次

A. 変更内容	4
1. トランスフォーマリポジトリテーブルのカラムを拡張	4
2. DBMS 設定ファイルの PostgreSQL ロード処理オプションの改定	4
3. CSV ファイルへの行追加時の改行コードの取扱い改定	4
B. バージョンアップによる影響	5
C. パッチの適用方法.....	5
1. ライブラリファイルの更新.....	5
2. パッチ適用後の確認.....	5

A. 変更内容

1. トランスフォーマリポジトリテーブルのカラムを拡張

出力データセットのテーブル/ファイル名に変数 (%i,%d,%t,%n) を含む管理単位を実行するとき、ODIP トランスフォーマが稼働するホスト名 (FQDN) の長さが 30 バイトを超えていると、エラーが発生し処理が異常終了しました。これは、トランスフォーマリポジトリ内の出力データセット情報を管理するテーブルの更新時に、ホスト名のオーバフローエラーが発生したものです。出力データセットの情報を管理するテーブルのホスト名を格納するカラムの長さを 30 バイトから 255 バイトに拡張しました。

2. DBMS 設定ファイルの PostgreSQL ロード処理オプションの改定

PostgreSQL の DBMS 設定ファイル (postgresql.properties) において、loader.command のオプションに設定する psql コマンドのテンプレートに <pass>変数を指定できるようになりました。コマンド実行時に <pass>変数には JDBC ドライバマネージャのデータソースに指定したパスワードが設定されます。この変数は、コマンドラインの接続オプション (-h、-p、-d、-U) を使用せず、コマンドのパラメタに例えば URI を指定して SSL モードの接続を行う場合や、PostgreSQL の環境変数 PGPASSWORD にセットして psql コマンドに引き渡す場合などに有効です。

この変数をテンプレートに用いると、実行時に接続文字列中にパスワードが埋め込まれます。接続文字列の文法エラーによる例外が発生すると、DBMS から返却される例外メッセージにパスワードを含む接続文字列がそのままログファイル等に出力される可能性がありますのでご注意ください。

3. CSV ファイルへの行追加時の改行コードの取扱い改定

ユーザビューの”ロードタイプ”プロパティに”行追加”を指定し、CSV ファイルのデータソースに出力する処理で、出力先のファイルにデータがあり、最終行の行末に改行コードがない場合、既存の最終行と最初の追加行が改行されない問題がありました。既存行の最終行の後に改行コードがない場合には、改行コードを付与してから追加行を出力するように改定しました。

B. バージョンアップによる影響

既存の定義への影響はありません。

C. パッチの適用方法

本パッチは、次の ODIP 製品に適用してください。

- ODIP アドミニストレータ v4.2
- ODIP オペレーションマネージャ v4.2
- ODIP リポジトリマネージャ v4.2
- ODIP プロセスマネージャ v4.2
- ODIP リポジトリサーバ v4.2
- ODIP トランスフォーマ v4.2

1. ライブラリファイルの更新

ODIP_P1040202005445 フォルダには、表 2 の製品ごとのフォルダにライブラリファイルが含まれます。実行中の ODIP 製品を終了し、製品ごとのフォルダに含まれるすべてのファイルを、表 1 のファイルのコピー先に上書きコピーしてください。

表 1 ODIP_P1040202005445 のフォルダ構成及びファイルのコピー先

ODIP_P1040202005445		ファイルのコピー先
lib	ADM	ODIP アドミニストレータの lib フォルダ
	OPE	ODIP オペレーションマネージャの lib フォルダ
	RPM	ODIP リポジトリマネージャの lib フォルダ
	RPS	ODIP リポジトリサーバの lib フォルダ
	TFM	ODIP トランスフォーマの lib フォルダ

2. パッチ適用後の確認

パッチ適用後は、各製品を起動し、表 2 の確認方法に従って確認を行ってください。

表2 パッチ適用後の確認方法

製品名	確認方法
ODIP アドミニストレータ	ヘルプメニューから“ODIP について”を選択し、表示されたすべてのビルド ID が 1040202005445 であることを確認してください。
ODIP オペレーションマネージャ	
ODIP リポジトリマネージャ	
ODIP プロセスマネージャ	
ODIP リポジトリサーバ	ODIP リポジトリマネージャのツールメニューから"ORMS サーバ情報"を選択し、表示されたすべてのビルド ID が 1040202005445 であることを確認してください。
ODIP トランスフォーマ	ODIP トランスフォーマを起動し、showserver コマンドを、オプションに“-info version”を指定して実行してください。表示されたすべてのビルド ID が 1040202005445 であることを確認してください。

以 上